

## 岩手における

# 地域福祉の「資源開発」を考える

近年、介護保険や生活困窮者対策等の制度改正のなかで、制度の対象とならない人々の受け皿づくりをすすめていくことが求められています。しかし、もともと人や施設、NPO等の「資源」に乏しい地方では、地域で新たな「サービス」を開発することには困難さを抱えざるを得ません。「高齢者ばかりの過疎地域でどうすれば見守りネットワークが作れる?」「頼りにできる福祉施設もないなかでどうやって自立支援プログラムをつくれればいいのか」こうした悩みが、地域福祉の現場からは寄せられています。

本研修では、地域でいわゆる「資源開発」に取り組んでいくための基本的考え方と取り組みのコツを、経験豊かな講師による講義と実践事例報告、ワークショップを通じて学びます。皆様のご参加をお待ちしております。

平成29年8月21日(月)～22日(火)

10:00～16:00

(受付開始 9:30～ /オリエンテーション 9:50～)

いわて県民情報交流センター アイーナ 7階

岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室1

◎受講定員 : 45名 (受講料無料)

◎申込方法 : 別紙「受講申込書」にてお申込みください(申込期限 8月8日)

※受講定員に達し次第募集を締め切らせていただきます。

## ◇ 資源開発研修プログラム ◇

●1日目 8月21日(月)

10:00～12:00 講義

「地域福祉における“資源開発”とは何か」基本的な考え方と手法

(12:00～13:00 昼食・休憩)

13:00～16:00 講義・演習

実践報告とパネルディスカッション

「先進事例にみる資源開発の実際」

●2日目 8月22日(火)

10:00～12:00 講義とディスカッション

「地域の見守りネットワーク実践の具体的な展開手法について」

(12:00～13:00 昼食・休憩)

13:00～16:00 グループワークと講義

「明日から取り組む資源開発のプランニング

～はじめの一步と次の一手をイメージする～」

## ■ 講 師 紹 介 ■

関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科

教授 藤井 博志 氏

大阪市生まれ。兵庫県社会福祉協議会、大阪府立大学を経て現在に至る。博士(社会福祉学)

【専門分野】地域福祉論・コミュニティワーク

◎市民・住民の地域福祉活動に関する研究 ◎コミュニティワーカー養成に関する研究 ◎宅老所などの日本的コミュニティケアに関する研究 ◎地域ケアシステム、地域福祉計画に関する研究  
アクションリサーチ、フィールドワークを方法として、現場にコンタクトし、現場と実践開拓しながら研究することをモットーとしている。

【近年のおもな著書】

『小規模多機能サービス拠点の本質と展開』(共著)CLC2005年、『介護における社会福祉援助技術』(共著)全国社会福祉協議会2007年、『地域福祉の理論と方法』(共著)中央法規2009年、『コミュニティワークスキルアップ講座』(単著)全国社会福祉協議会2009年、『社協の醍醐味』(共著)CLC2010年、『地域ケアシステムとその変革主体』(共著)光生館2010年、『地域共同ケアのすすめ』(監修)CLC2011年、『地域支え合いのすすめ』(監修)CLC2012年、『市民がつくる地域福祉のすすめ方』(監修)CLC2015年 そのほか著書多数

コミュニティハウス ひとのま

宮田 隼 氏

愛知県生まれ福岡県育ち。福岡大学附属大濠高等学校→日本福祉大学情報社会学部。

大学卒業後、愛知県にて教育関連企業に就職。そこで不登校やひきこもりの問題に直面する。その後その問題を中心に取り組むことに決め、富山県にて学習塾「寺子屋みやた」を創業。翌年、不登校・ひきこもりのフリースクール「ひとのま学園」をスタート。その翌年、誰もが気軽に使える一軒家「コミュニティハウスひとのま」をスタート。

【活動歴】・寺子屋みやた教育長(H21～)・ひとのま共同代表(H23～)・社会的包摂サポートセンター北信越ブロックセンター長(H25)・富山発達凸凹ネットワーク副代表(H25)・高岡市男女平等推進センターネットワーク会議委員(H24)・高岡市市民活動支援・協働推進講座実行委員(H21)・高岡市協働のまちづくり推進委員(H21)

・男性介護ネットワーク北陸ブロック運営委員(H23～)

【講演歴】大学、行政機関、民生委員、不登校やひきこもりの親の会、各種当事者会、産業カウンセラーなどなど多数講演実績あり。

【著書(共著)】NPOが動くとやまが動く(桂書房)

※上記講師のほか、8月21日(月)に山形市社会福祉協議会の尾上栄美子様より実践事例報告を予定しております。